

令和2年度 学校評価報告書

丹波篠山市立西紀南小学校

校長 細見 康彦

1 学校教育目標等

自ら考え、進んで学び、未来を切り拓く児童の育成
～こころ豊かにたくましく、チャレンジするみなみっ子に～

2 今年度の重点目標

- (1)児童の内面理解に基づいた生徒指導を行うとともに、豊かな心を育む学習や活動を推進し、学校全体として人権教育の充実を図る。
- (2)きめ細かな個に応じた指導をもとに、基礎基本の徹底を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努め、学力の向上を図る。
- (3)学校施設の安全管理、登下校の安全対策の充実を図り、子どもたちが安心して学べ、保護者・地域から信頼される学校をつくる。
- (4)家庭や地域との連携を深め、ふるさと教育を推進し、ふるさとを愛し、誇りに思う心を育てる

3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

| 分野 | 評価項目 | 達成状況 | 取組状況・改善方策 |
|------|--|------|--|
| 安全管理 | 安全管理と安全教育の充実を図り、安全で安心な学校づくりができたか。 | A | 毎月行う施設安全点検に加え、育成会や学校運営協議会による校区・校舎の安全点検等を行い、その結果を受けて調査、整備・補修を行った。コロナ禍であったが、状況に合わせて安全・防災に関する学習を行うことができた。 |
| | 児童の内面理解に基づく生徒指導の充実が図れたか。 | A | 年3回のアンケートやみなみん相談の機会を設けて児童の内面理解に努めた。児童保護者にとって相談しやすい雰囲気や体制づくりに努め、保護者の方と連絡を密にして指導にあたっていく。 |
| 学習指導 | ことばの力を高める活動の充実を図り、表現力を育成できたか。 | A | 学年や発達段階に応じ、掲示物による支援辞書の活用、自主学習の工夫など、有効な方法を取り入れ、語彙力、表現力をつける学習を継続的に行った。 |
| | 基礎的・基本的な学力の定着が図れたか。 | A | 複数指導によって児童の困り感や課題を見つけ、教師間で共通理解をはかって、きめ細やかな指導に生かしていった。 |
| 生徒指導 | 「西紀南小学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止、早期発見・早期対応が図れたか。 | A | 組織的な指導に取り組んだ。今後も、学校教職員が多くの目で児童の様子を見取り、保護者の方と情報を共有しながら未然防止や早期発見に努めていく。 |

| | | | |
|------------|---------------------------------|---|---|
| 保護者・地域との連携 | 地域の人材や自然、行事などを活用し、ふるさと学習に取り組めた。 | A | 今年度は例年行っている地域学習に加えて「学校応援団」や縦割り班による地域遠足を実施した。延べ90名の地域・保護者の方が約20の授業に参加され、学習のサポートや講話をしてくださった。地域遠足では各地区の歴史や伝統行事について教わり、ふるさとの良さを学ぶことができた。学習内容を積極的に知らせ、保護者・地域と情報を共有していけるよう検討していく。 |
|------------|---------------------------------|---|---|

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

- ・社会の変化がより速く複雑になってきている今、色々なことに興味・関心を持ち、自己実現を達成するため、自分自身を高め、変化に対応できる力を伸ばすことが必須だろうと思う。自身を高め自ら学び続ける力をつける学習方法の研究を続けていってほしい。
- ・本年度の重点目標はこれからも続けてほしい目標である。保護者と教職員、児童と教職員の良い関係、信頼関係がもっとも大切だと思った。

(2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・今後も予期せぬ事態が起こり得ると思うので、柔軟な対応ができるように、改善や対策を講じる必要性が高まっている。
- ・外国人児童とのふれあいや有意義な学校生活を送れるよう、色々な取り組みや工夫も必要になってくる。
- ・西紀南小学校の子どもたちはどの学年もたいへん元気で、楽しい学校生活を送ることができていると思う。

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

| 分野 | 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価 |
|------------|---|
| 安全管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育について、昨年度よい機会をもらって、地域防災訓練を実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症のため中止しなければならなかった。次年度検討していきたい。 ・子どもたちの笑い声、笑顔はまわりに元気を与えてくれる。私たちも笑い声、笑顔が絶えない環境づくりに協力したい。 |
| 保護者・地域との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあったが、地域遠足を行い、地域と学校の共同行事ができたことは子どもたちにとってたいへんよい経験だったと思う。 ・授業の支援活動が中止になったこともあったが、よいアイデアだと思う。次年度に実施できるよう細部までイメージしていただき、よい事業にしてほしい。授業に参加できることを楽しみにしている。 ・地域の人が定期的に学校へ足を運ぶ方法を考えてはどうか。（月1回程度、奉仕活動の日時を決めるとか。） ・3年生では、黒大豆の授業で、体験活動や教室での子どもたち相互の意見交換等いろいろと多様な接し方ができた。 |
| 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童、保護者、教職員でアンケートを実施し、「基礎的・基本的な学力の定着」や「ことばの力を高める活動の充実」に少し差が見られる結果があったが、保護者の考え方や意見を聞き、子どもや教職員との差の縮小を図ることが必要かもしれない。 |

